

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」名古屋大学 ～若手が飛躍するNagoya University～

平成25年度配分予定額：400百万円

名古屋大学は、これまでの自由闊達な風土を生かしつつ、若手が飛躍するNagoya Universityを目指し、以下の項目に取り組みます。

- 国際的な研究者による次世代の世界最先端研究拠点群を形成します。
- 徹底した人事の透明性、公平性を担保し、若手・女性研究者の質と量を充実させます。
- 明確な執行体制の下で、強固な研究マネジメント人材群を形成します。
- 学内に競争的環境を導入し、構成員の意識改革と研究の活性化を行います。

## ○名古屋大学における研究活動の状況

### 【強み】

- 教員一人当たりの科研費採択数が国立総合大学中で第2位であるなど、自由な発想に基づく研究は極めて活発
- 女性・外国人研究者の人材登用も進みつつある
- 国際化についても、着実に進展

### 【課題】

- 課題解決型の研究や産学連携研究には、まだ改善の余地があり、大学全体の戦略が必要
- 若手研究者を取り巻く研究環境は厳しく、雇用から研究費の確保に至る支援の拡充が必要



## ○達成目標

本事業の支援のもと、名古屋大学は人事制度改革、財務制度改革を進め、また研究支援制度・体制を刷新することで、以下の目標を達成します。

- 若手を中心とした次世代の世界最先端研究拠点の芽(学内WPI)の発掘と育成
- 若手研究者の育成制度の確立と若手を中心とした30名程度の雇用増
- 優秀な新規女性教員への研究支援をベースに、女性教員比率を20%程度まで向上
- 外国人教員が安心して研究に専念できるよう受入体制を整備し、外国人教員比率を8%まで向上
- 新しい職階の導入によるURAのキャリアパスの確立と研究マネジメント人材群の増強
- インセンティブの付与などの施策による特許収入の大幅向上
- 学内機器の共用化推進による研究環境の向上
- 様々な研修を通じた事務職員の国際化

# 名古屋大学の取組み ～若手研究者の育成とキャリアパスの確立～



名古屋大学は優秀な若手研究者が自らの発想でいきいきと研究を行えるよう、さまざまな制度を導入します。

## ポスドク 特定プロジェクトのもとで研究

促進制度: Young Leaders Cultivation (YLC)【既設】

- ・ 博士号を取得した研究員を全学での厳格な審査のもと大学雇用のYLC特任助教へ
- ・ YLC特任助教には海外留学を推奨

若手新分野創成研究ユニット制度【新設】

- ・ 専門分野の異なる若手研究者のチームによる提案型研究(詳細後述)

## 特任助教 自らの発想に基づく研究と教育への従事

促進制度: YLC-tenure【既設】

- ・ YLCを発展させ、最終審査に合格した若手研究者を5年以内に承継職員へ

選択年俸制【新設】

- ・ 60歳以上の教員に適用し、承継職員枠を若手に適用

## 助 教 自立した研究者・教育者

促進制度: 講師へのテニュアトラック制【新設】

- ・ 新規採用の助教(任期付承継職員)を5年以内に全学委員会で審査し、合格した助教は講師へ
- ・ 新規採用の助教の研究スタートアップのため百万円を付与

機器の共同利用化と使用料の無償化【新設】

- ・ 機器の共同利用化を進めることで、研究設備の効率化を図るとともに、若手研究者に対し利用料を無償化し研究遂行を支援

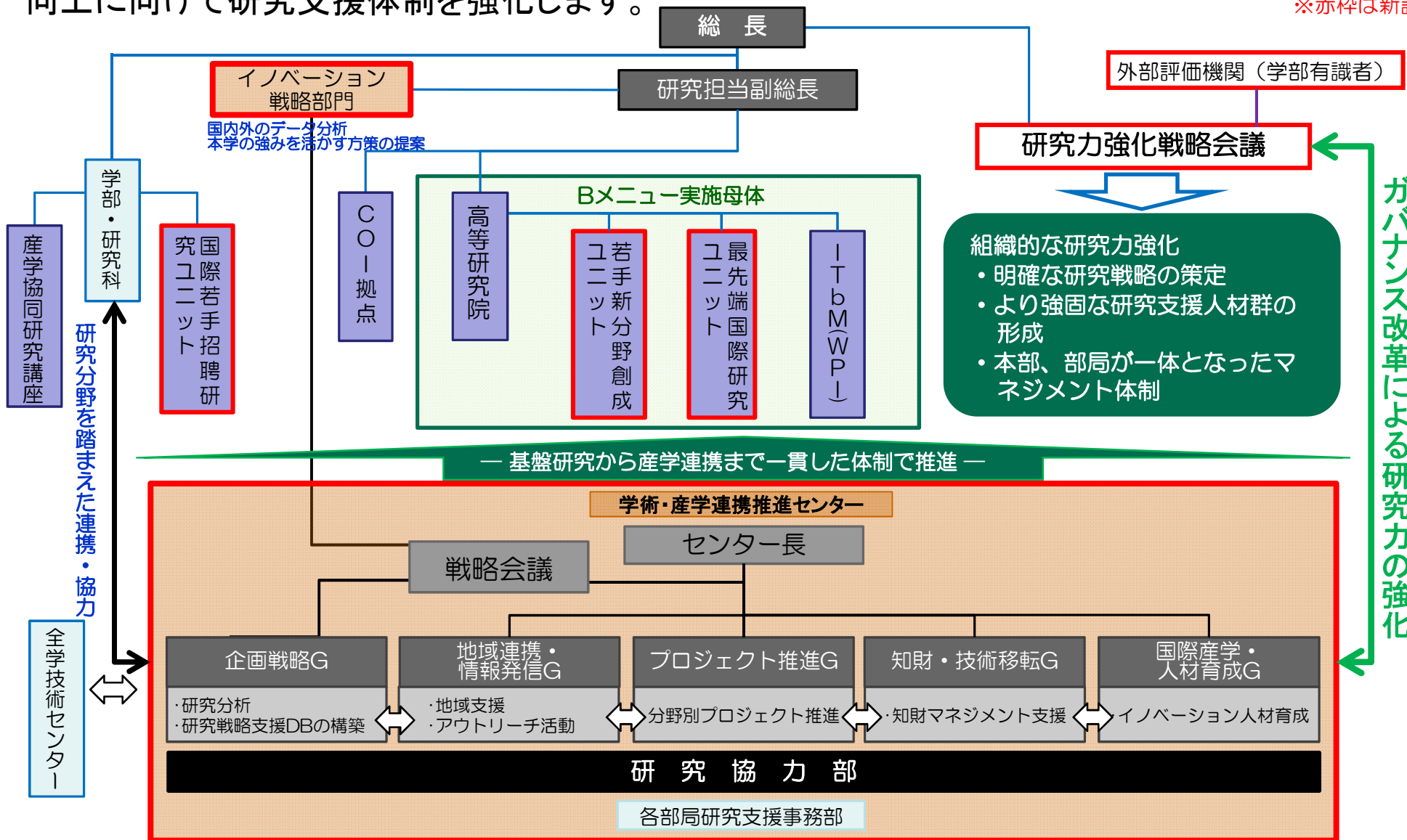
## 講 師 研究室を主宰する研究者・教育者

# 名古屋大学の取組み ～研究支援体制の強化～



名古屋大学は、自由な発想に基づく研究のさらなる推進と課題解決型研究や産学官連携研究の向上に向けて研究支援体制を強化します。

※赤枠は新設



# 名古屋大学の取組み ～世界最先端研究拠点の形成支援～



名古屋大学は下記の3種類の研究ユニットを新設し、世界最先端研究拠点の形成を目指します。同時に、事務職員の国際化対応能力を向上させるとともに、国際会議の開催を支援するなど、さまざまな方策により世界最高水準の研究大学”Nagoya University”への移行を加速します。

## 最先端国際研究ユニット〔学内WPI〕

【目的】 世界の一流の研究者の招聘(国際公募・年俸制)と本学の一流の研究者の連携による**世界的研究拠点形成、ジョイントラボ形成**

【施策】 特任准教授と特任助教の雇用による**研究専念時間の確保**と研究推進



## 国際若手招聘研究ユニット

【目的】 世界の一流の若手研究者と本学の研究者との連携による**世界的研究拠点形成**

【施策】 **若手研究者**の招聘(国際公募・年俸制)と**名大定員化**  
特任助教雇用による研究推進



## 若手新分野創成研究ユニット

【目的】 **異分野の若手(助教、特任助教、PD)研究者チーム**による**新分野への挑戦**支援。優れた特任助教、PDを承継職員化

【施策】 研究費支援(4百万円)。特任助教、PDはプロジェクト雇用から教育経験の積める大学雇用へ。女性枠の設置(計6名/年)